

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	玖珂町立玖珂小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	3	3	0	15	22
児童数	93	76	70	71	87	103	0	500	

研究の概要

1. 研究主題

<p>学ぶ楽しさやできる喜びを味わい、自ら学び続ける児童の育成 ～確かな学力を定着させるための指導の工夫～</p>
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・・・算数 児童の理解の状況に差が出やすく、個に応じたきめ細かな指導が要求される教科であるため。</p> <p>6年生・・・社会・理科・音楽 教科担任制の導入にあたって、専門性を生かし、教材研究の効率化を進めながら、より深く幅広い学習展開を図る研究に取り組むため。</p>
--

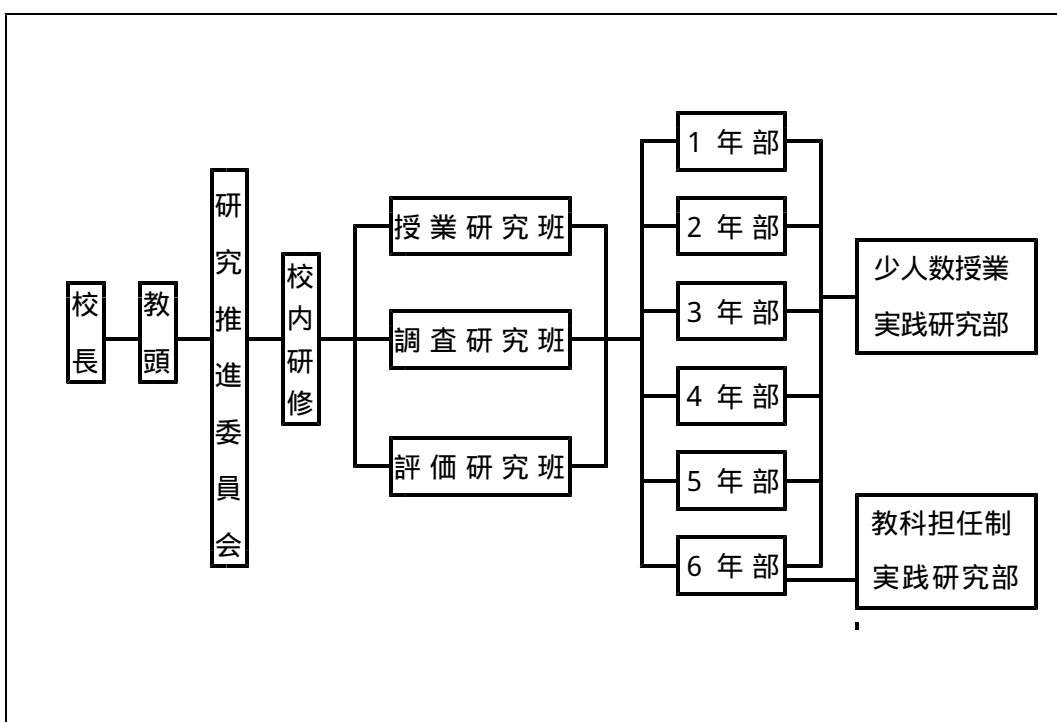
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 学ぶ楽しさやできる喜びを味わい、自ら学び続ける児童の育成 ～確かな学力を定着させるための指導の工夫～</p> <p>研究の見通し(仮説) 個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫改善をすれば、学ぶ楽しさやできる喜びを味わい、確かな学力を持つ児童を育成することができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 個に応じたきめ細かな学習指導の充実             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ意欲を高め、楽しく学習できる教材の活用や開発</li> <li>・習熟度に対応するためのプリントやスキルなどの効果的な活用</li> <li>・朝の「どんどんタイム」における、計算の繰り返し学習の実施</li> </ul> </li> <li>2 少人数指導や教科担任制導入による学習指導の充実             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年における少人数指導やTTによるきめ細かな指導方法の工夫</li> <li>・第6学年の教科担任制の実施によるきめ細かな指導方法の工夫</li> <li>・習熟度別やコース別学習などの編成方法の工夫</li> </ul> </li> <li>3 指導と評価の一体化への検証</li> </ol>
--------	---

- ・評価規準を活用した評価方法の工夫
- ・学力診断テストの実施による学力の実態把握
- ・意識調査や授業アンケートの実施による授業改善の工夫

平成 16 年 度	<p>テーマ 学ぶ楽しさやできる喜びを味わい、自ら学び続ける児童の育成 ～ かかわり合いの中で、確かな学力を～</p> <p>研究の見通し 共に学び高め合う学習指導の工夫改善をすれば、学ぶ楽しさやできる喜びを味わい、自ら学び続ける児童を育成することができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 共に高め合う学習のための授業改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決や練り合いの場の保障</li> <li>・共に高め合うための授業展開の工夫</li> <li>・学習の振り返りによる自己評価力の向上</li> </ul> </li> <li>2 学ぶ意欲を高めるための教材の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく学習できる教材の活用や開発</li> <li>・習熟度に対応する教材の有効活用</li> <li>・「どンドンタイム」における計算の繰り返し学習</li> </ul> </li> <li>3 きめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導やTTによる指導方法の工夫</li> <li>・教科担任制の実施による指導方法の工夫</li> </ul> </li> <li>4 児童の学力の評価を生かした指導の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力診断テストによる学力の実態把握と分析</li> <li>・意識調査や授業アンケートの実施による授業改善の工夫</li> <li>・見取りの工夫による指導と評価の一体化</li> </ul> </li> </ol>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



1. 研究成果

1 個に応じたきめ細かな学習指導の充実

分数カード、面積図、数直線図、テープ図等を個に応じて活用させることによって、原理や方法がわかりやすくなった。

身の回りにある物を活用して操作活動の時間を保障することによって、理解を助けるとともに、目的意識を持って取り組むことができた。

ゲームやクイズを取り入れることによって、児童の関心をひき学習意欲を高めることができた。

授業の中に100玉そろばん練習やスキルでの復習を位置づけることによって、知識・理解の定着を図ることができた。

朝の「どんどんタイム」で計算の繰り返し学習を実施することによって、学習意欲を高めるとともに、計算力の定着を図ることができた。

・ どんどんタイムについての児童の感想より

ア どんどんタイムをやるので、計算が速くなった

イ タイムが上がっていくのが楽しい

ウ いろいろな計算ができ、レベルが少しずつ上がっていくのがよい

2 少人数指導や教科担任制導入による学習指導の充実

各学年で異なる指導体制（学級を2つに分ける少人数指導や学年を3つに分ける少人数指導やTT指導）のもとで特性を生かした実践を重ねることによって、様々な指導方法を研究することができた。

・ 少人数指導についての児童の感想より

ア わかりやすく教えてくれる

イ 楽しく教えてくれる

ウ 質問がしやすくなった

・ 少人数指導についての保護者の感想より

ア 子どもにゆとりを持って理解させている感じで印象がよい

イ 少人数だからこそできる活動があるのがよい

ウ 一人一人の子どもの様子がよくわかる

単元の終わりにコース別学習を取り入れたことによって、一人一人が自分にあった方法で学習することができるとともに、理解の定着を図ることができた。

・ コース別学習のアンケート結果より

とてもよかった・・・・・・・・・・68.6%

よかった・・・・・・・・・・25.7%

よいとはいえなかった・・・・1.4%

よくなかった・・・・・・・・・・4.3%

・ コース別学習の児童の感想より

ア 自分で選べてちょうどいいコースだった

イ 友だち同士で問題が出し合えたのがよかった

ウ いろいろなヒントがあってよかった

第6学年の教科担任制の導入によって、より深く幅広い学習展開を図ることができた。

専科による指導において、その専門性を生かし深い教材解釈をした授業を実践することによって、基礎知識のより一層の定着を図ることができ、きめ細かな指導に取り組むことができた。

・ 専科と担任のTT指導による理科の学習アンケート結果より  
「ものの燃え方と空気」の学習では、内容はよくわかりましたか。

とてもよくわかった・・・30%

わかった・・・57%

わかりづらかった・・・13%

わからなかった・・・0%

「ものの燃え方と空気」の学習は、楽しかったですか。

とても楽しかった・・・62.2%

楽しかった・・・33.7%

楽しくなかった・・・4.1%

つまらなかった・・・0%

### 3 指導と評価の一体化への検証

評価規準に照らし合わせて、数と計算の領域の1単元について、「具体的評価目標と目標達成のための指導の手だて」を作成した。各時間ごとに重点的に評価する観点を明確にし、単元全体でバランスよく4つの観点を評価できるように考慮した。特に、努力を要する状況の児童に対する手だてについての具体的な方法を考えた。すべての単元で実施することは困難であるが、目標に対してどの程度到達したかを把握して、児童のそれぞれの状況に応じて援助の手だてを考えることは、的確な評価を指導に生かす上で重要であるということが明らかになった。

指導に生かす評価を充実させるために、単元の指導計画とともに、実際の評価場面や評価活動に即した評価規準を含む評価計画を立てた。評価計画を作成することによって、指導方法や個に応じた手だてを工夫したり、評価方法を見直したりすることができた。

算数に対する児童の意識調査を6月と1月に実施した。2回の調査を比較してみると、算数が好きと答えた児童は2%の増加で、算数が嫌いと答えた児童は1.4%の減少にとどまり、著しい変化はみられない。しかしながら、2回目の調査での好きという理由の中には、「少人数指導だから」という指導体制に関わること、「よくわかる」などの指導方法の工夫に関わるものがあげられていた。また、「算数が楽しいと思うのは、どんなときか」という問いについては、「わからないことがわかるようになったとき」「作業などを行っているとき」「自分のやり方や考え方が認められたとき」「勉強したことが役立ったとき」という項目を選んだ増加が見られた。

## 2 . 今後の課題

共に学び高め合う学習をしていくために必要な力を焦点化し、育成していきたい。

授業のポイントをおさえて、授業改善を積み重ねていきたい。

種々の指導形態の特性を生かして、より一層効果的な指導方法の工夫をしていきたい。

学力テストや意識調査、授業アンケートなどを実施して実態を把握し、より一層の授業改善に努めたい。

授業の中に学習の振り返りや自己評価を位置づけ、児童自らが学び続ける力を育成したい。

保護者との連携を図り、学習基盤や生活基盤を確立していきたい。

算数以外の教科でも、学習のしつけや学び方を共通理解し、確かな学力を育成していきたい。

## 学力等把握のための学校としての取組

### 「算数の学力診断テスト」

児童の算数の学力を把握するために、前学年の内容で、2～6年が6月に実施した。

### 「算数に対する意識調査」

児童の学習意欲を把握し、指導に生かすために、全学年対象に6月と1月に実施した。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 管内の各学校や関係機関への研究集録の配布
- ・ ホームページの開設

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無